

平成28年度 まちづくり推進部 方針書

まちづくり推進部長 高橋 征徳

1. 部の使命（役割）

地域づくり事業と生涯学習やスポーツ振興事業が連動したまちづくり施策を実施して、市民が主役となる地域づくりの推進役になります。

2. 平成28年度における課題（前年度の振り返りから）

- ① 市民の意見を聞き、施策に反映する必要性について議会等から指摘がありました。
⇒市民の意見を施策に反映させるための仕組み作りが課題です。
- ② 横手市民の一体感を醸成して、地域間の垣根を取り払うことが課題です。
- ③ 地域の特性を活かしたまちづくりを継続的に推進することが課題です。

3. 平成28年度の『スローガン』

市民と手をたずさえて、いろいろな声を反映していますか

4. 年度目標となる方針（目標）

- ① 地域住民が自主的な活動を推進する新たな組織づくりを進めます。
- ② 10年後の地域局のあり方を、市民とともに創造するスタート年とします。

5. 重点取組項目

(1)	項目	部局横断による市民サービスの充実
	取組内容	① 本庁各部との情報共有により、市民にわかりやすい市民サービスの提供に努めます。 ② 職員数が減少する中で、市民の意見を聞き地域局のあり方について検討します。
(2)	項目	市民が主役となる地域づくりを支援
	取組内容	① 地域づくり協議会、地区会議、公民館を含め、新たな地域づくりのあり方を検討します。 ② 地域住民が自ら行う地域づくり活動を支援します。
(3)	項目	市民が元気になるまちづくりの実践
	取組内容	① 「増田の町並み」のように、歴史を活用したまちづくりの事業計画策定に着手します。 ② 東京オリンピック・パラリンピックに向け、地域活性化のためホストタウンを目指します。

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況 【現状】

1. 増田庁舎オープンリノベーション事業の完了により、市民が集う新しい地域局庁舎を創出しました。
2. 市町村合併から10年を経て、市民と行政が情報を共有し、市民が主役となる新たな地域づくり組織のあり方について、市民の意見聴取に着手しました。
3. 歴史的風致維持向上計画の策定について、庁内の体制を整え、国土交通省等との協議に着手しました。
4. 市長のインドネシア訪問等により、東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン登録を実現できました。
5. 市議会より、計画した事業の進め方において、市民に対する情報提供が少ない旨の指摘がありました。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

1. 地区会議を中核に据えた新たな地域づくりの仕組みについて、市民に丁寧の説明しながら合意形成に努めます。
2. 市民ファーストを実践する地域局窓口をめざして、職員間の情報共有とスキルアップを図る職員研修に努めます。
3. 体育施設の指定管理導入にむけて、FM計画との整合性を図りながら、市民サービスの向上と効率的な施設運営を目指した検討を進めます。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

1. 部局横断による市民サービスの充実
増田庁舎のオープンリノベーション事業や平鹿地域多目的総合施設整備事業、更には、十文字庁舎整備事業の検討の中で、市民の意見を反映しながら市民サービスの向上をねらいとした取り組みを進めました。まちづくり推進部と本庁各部との連携や各地域局と本庁各部の情報共有については、連携不足等の指摘をいただき、多くの課題があることから、創意と工夫を重ねていきます。
2. 市民が主役となる地域づくりを支援
公民館の地区交流センター化については、これまでの試行している一部の公民館で平成29年度より本格実施することになりました。市民が主役となる地域づくりの仕組みについて、さらに検討を進め、平成30年度から新たに開始できるよう努めてまいります。
3. 市民が元気なるまちづくりの実践
増田まんが美術館の改修事業を核とする秋田県未来づくり協働プログラムは、市民の理解を促進しながら、実現を目指します。スポーツ立市よこての具現化を目指す市民の健康づくりに、多くの市民が参加することを目指します。